府立芥川高等学校
校長　冨山　一紀

令和５年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。
１　「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
２　「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
３　「豊かな人間力」を持った生徒の育成

２　中期的目標

１．自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

（１）　学力の向上（授業力向上）

ア：生徒の「好奇心が掻き立てられる授業」となるように、教職員がいつでも、どこでも、だれとでも相談できる環境づくりと組織的な取組みを推進する。
イ：言語活動を充実させ、主体的かつ論理的に自己を表現する思考力、判断力を養う。１人１台端末の活用促進をはじめ ICT 等をより効果的に活用し、学習効果の可能性を追求していく。オンライン授業等において教員の負担を増やさず、生徒の学びが保障できるシステムの構築をめざす。
ウ：観点別学習状況の評価（観点別評価）の活用により、生徒が自ら学ぶ力を高め、教員は指導と評価の一体化を実感する機会を得る。
＊授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度 80%以上を維持する。（R2：82.3%　R3：85.0%　R4：85.7%）
＊生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT 活用の肯定率を、令和7年度には80%とすることをめざす。（R4：71.6%）

（２）　希望進路の実現

ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。
イ：「学力生活実態調査」を活用し、一人ひとりの希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行う。
＊生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度 90%以上とする。（R2：90.1%　R3：90.1%　R4：87.9%）
＊進路希望の多様化にも対応し、今後も希望進路達成率 85%以上を維持する。（R2：82.9%　R3：84.6%　R4：89.3%）

２．グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

（１）　使える英語力の育成

ア：高大連携等「グローバル専門コース」の取組みの充実・構造化と、英語４技能の育成を図る。
イ：４技能を様々な場面、様々な形で用いて英語に触れる機会を多くもつことを通して運用能力の向上を図る。その結果として、生徒の英語に関する資格への関心を高め、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。
＊実用英語検定資格取得者を、令和７年度までには 70 人以上とすることをめざす。（R2：57 人　R3：56 人　R4：61 人）

（２）　国際感覚の育成

ア：交流生の派遣や受入れ等の国際交流を促進するが、新型コロナ感染症の影響等で実施できない場合は、外部連携等の新しい取組みを創出する。
イ：異文化理解をテーマとする国内修学旅行の実施等、国内において実施可能な形で異文化に触れる機会を創出する。
＊令和７年度には生徒向け学校教育自己診断における国際理解に対する肯定率 80%をめざす。（R2：78.7%　R3：71.2%　R4：75.2%）

３．豊かな人間力を持った生徒の育成

（１）　新型コロナ感染症の影響が続く中、厳しい状況だからこそ他者へ思いを馳せられる with コロナの新生活様式を実践する。

（２）　体験学習の充実

ア：保育園実習等を通じて、福祉ボランティアに関する学びとキャリア意識の醸成を図る。
イ：地域と連携した体験活動の充実を図る。
＊令和７年度には生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率 70%をめざす。（R2：73.2%　R3：64.2%　R4：66.6%）

（３）　学校行事、部活動の振興

ア：学校行事を通して主体的に考え協働する力を養う。また、地域等へ広く公開することで地元とつながり、生徒のシティズンシップを育む。
イ：部活動の入部率及び定着率を高め、その活性化とメリハリのある活動により学習との両立を図る。
＊部活動加入率（６月集計）を毎年引き上げ、令和７年度には 80%とする。（R2：71.1%　R3：72.5%　R4：74.5%）

（４）　規範意識の醸成

ア：身につけさせたい規範意識を教員間で共有し、全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底する。その指導がめざすところを生徒に説明、理解させ、主体的にルールやマナーを守ることができるように導く。
イ：生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。身の回りの人を尊重し、挨拶がしっかりとでき、時間を守ることができる生徒を育成する。
＊生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率を、令和７年度には 95%とする。（R2：94.1%　R3：94.0%　R4：92.2%）

（５）　人権意識の向上

ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にし、大切にされる人権教育を推進する。
イ：生徒と教職員がお互いに、お互いを尊重し、共に学び、学校全体として人権意識を高める取組みを実施する。
＊令和７年度には生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率 85%をめざす。（R2：83.7%　R3：84.0%　R4：84.2%）

４．信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）

（１）　次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上

（２）　教職員の働き方改革による時間外在校等時間の削減

（３）　開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信

（４）　中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信

＊生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率を、今後も 85%以上を維持する。（R2：84.4%　R3：86.1%　R4：87.2%）
＊保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和７年度には 85%とする。（R2：85.9%　R3：82.4%　R4：80.6%）
＊学校説明会・オープンスクールへの中学生および保護者の参加人数を、今後も 1100 人以上を維持する。（R2：1125 人　R3：1124 人　R4：1096 人）

府立芥川高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R４年度値］	自己評価
1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成	**１）学力の向上** ア　「好奇心が掻き立てられる授業」をつくり出すための、教職員が切磋琢磨できる環境づくり	ア・授業アンケートの振り返りによる授業改善 ・学校全体としてのテーマを設定した相互授業見学を実施し、気づいた長所を必ず伝えあう。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 75%以上を維持〔77.6%〕	
	イ　より効果的なICT 機器の活用とオンライン授業のための体制の構築	イ・日常業務の中で ICT の活用やオンライン授業に関するアイデアを共有しストックする。 ・教科指導における１人１台端末の効果的な活用を促進するための研修や研究授業を実施する。 ・ストックされたアイデアやツールをより多くの教員がそれを利用できるようにするための研修等を実施する。	イ・授業アンケートにおける授業満足度（興味・関心・知識・技能に関する生徒意識）80%を維持〔85.7%〕 ・生徒向け学校教育自己診断結果における ICT 活用の肯定率 75%〔71.6%〕	
	ウ観点別学習評価を有効に運用と自学自習力の育成	ウ・各教科の観点別評価規準を教科オリエンテーション等で生徒へ周知し向学心を高める。 ・週末課題等、自学自習力をつけさせるための取組みを行う。	ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 85%をめざす〔83.9%〕	
	２）希望進路の実現 ア　望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育の推進	ア・「憧れる存在をみつけよう」をコンセプトに、卒業生による進路講話やガイダンスを通して、社会に貢献する自分像をイメージできるようにする。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導（進路や生き方について考える機会の提供）への満足度 90%以上〔87.9%〕	
	イ　個々の生徒の想いを受け止め希望進路に応じたきめ細かい進路指導	イ・対面やオンラインでの個別懇談等により、一人ひとりきめ細かい進路指導を実施する。また、活動記録を適切に残し活用する。 ・外部教育産業を活用して、「学びの基礎診断」の分析結果を各教科で共有し、指導の振り返り、計画に生かし、より実効性の高いものにする。 ・「進路のてびき」の有効活用や保護者向け進路講演会等で、早い段階から希望進路実現に向けた意識を高める。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 90%をめざす〔88.2%〕 ・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%をめざす〔79.9%〕 ・希望進路達成率 85%以上を維持する〔R489.3%〕	

府立芥川高等学校

２．グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成	１）使える英語力の育成 ア 高大連携等「グローバル専門コース」の取組みの充実・構造化と、実用性の高い英語力育成	ア・グローバル専門コースにおいて、平常の授業との関連を密にし、高大連携による特別授業や留学生や大学生との交流などの充実を図るとともに、個々の取組みの目的や位置づけを整理する。	ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 90%以上を維持〔96.1%〕	
	イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得推進	イ・校外の英語力向上プログラムの活用や授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒全員に検定試験の受験機会を与え、英語４技能を育成する。 ・グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく。	イ・英語検定等の資格取得者数 70 人以上〔R461 人〕	
	２）国際感覚の育成 ア 海外交流生の派遣や受け入れ等、国際交流の促進	ア・語学研修の実施を目標とする。感染症等の影響により実施できない場合、NET や関係大学、関係機関の協力を得て生徒がオンラインでの活動を含む国際交流を体験する機会を創出する。	ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 95%以上を維持〔100%〕	
	イ国内で実施可能な異文化理解の機会の創出	イ・異文化理解をテーマとする修学旅行、留学生や JICA 海外協力隊経験者による講演など、国内外の様々な文化理解を目標とした学習を実施し、日本に住む高校生としての国際感覚に根差したアイデンティティを育む。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における異文化理解の取組みへの満足度 80%をめざす〔75.2%〕	

府立芥川高等学校

3．豊かな人間力を持った生徒の育成	1）コロナ禍での健康管理および新生活様式の実践 2）体験学習の充実 ア 保育園実習の充実	・with コロナの新生活様式を実践し、他者の幸せに思いを馳せ、仲間と共に健康で明るい学校生活を送れるよう指導する。 ア・保育園実習及びその事前・事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための機会とする。 ・高齢者施設や障がい者施設での実習等、福祉ボランティアに関する体験学習の可能性を探る。	・生徒向け学校教育自己診断結果における健康指導に関する肯定率85%以上を維持する。〔85.5.%〕 ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 80%をめざす〔75.2%〕	
	イ 地域と連携した体験活動の充実	イ・地域主催の行事等への積極的な参加（オンライン上の参加も可）やボランティア活動、近隣中学校との部活動交流等を通じて、地域を愛し、地域に愛される体験の機会を持つ。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率70%をめざす〔66.6%〕	
	3）学校行事、部活動の振興 ア 主体性・協働性の涵養、地域とのつながりによるシティズンシップの涵養	ア・生徒が学校行事に主体的に関与し協働的に取り組めるよう、サポートを強化する。 ・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。	ア・教職員向け学校教育自己診断結果における行事充実への工夫の肯定率90%以上を維持〔95.1%〕	
	イ 部活動の活性化	イ・入部率および継続率向上を図るとともに、近隣の学校や園、施設、団体との連携を深める。学校行事において部活動部員の活躍の場を設ける。	イ・６月時点の部活動加入率76%以上〔74.5%〕	
	4）規範意識の醸成 ア 生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。	ア・全ての教職員が「あくたベース（生徒指導編）」に基づいた統一した指導を行う。 ・スマートフォン等の指導においては、時代に則したルールづくりと共に、情報モラルに関する学習を充実しマナーの遵守を図る。 ・あらゆる機会を通じて生徒に夢や生き方を語り掛け、一人ひとりがなくてはならない存在であることに気づかせる。	ア・懲戒件数5件以下を維持〔5件〕	
	イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえての規範意識の向上。挨拶がしっかりとでき、時間を守れる生徒の育成。	イ・自らと身の回りの人を大切にするということがすべてにおいて優先するという日常的な指導の徹底と事前学習を踏まえたうえで、交通安全指導や防災避難訓練、薬物乱用防止教室やコロナエチケット指導等、様々な機会を捉え、規範意識の向上を図る。 ・遅刻指導により、時間を守り、学校生活を大切にする生徒を育てる。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率95%以上〔92.2%〕	
	5）人権意識の向上 ア 一人ひとりを大切にする人権教育の推進	ア・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。 ・保健室での聞き取りや教育相談委員会での情報を活用し、スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、生徒、教員一人ひとりを大切にするために教育相談をさらに充実させ、生徒の成長を支援する。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率85%をめざす〔84.2%〕 ・生徒向け学校教育自己診断結果における気軽に相談ができる教員の存在の肯定率 60%以上を維持する〔61.1%〕	
	イ 生徒、教職員が共に学び人権意識を高める。	イ・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等、学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。 ・生徒のみならず、教職員も人権に関する研修を積極的に実施し人権意識の向上を図る。	イ・教職員向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率90%以上を維持〔98.3%〕	

府立芥川高等学校

４．信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）	1）次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上	・校務検討委員会や安全衛生委員会等を中心に、業務の軽減・円滑化・連携強化・平準化・効率化を図り、教職員の働き方改革の推進及び組織力の向上を図る。 ・「何かありますか」から「これやりますね」への移行を図り、お互いが声をかけ助け合う組織文化を醸成する。。 ・次世代を支える教員が中心となって企画運営する、「もっと知りたい、もっと良くなりたい」がフランクに言える教員の自主研修の充実などによって教員力向上を図る。	・生徒向け学校教育自己診断結果における、教員の協力体制に関する肯定率85%以上を維持〔87.2%〕	
	2）教職員の働き方改革による時間外勤務削減	・ICT の活用や部活動の適切な休業日設定等、働き方改革による時間外勤務削減を図ることにより、教職員の健康とワークライフバランスを守り、教材研究や生徒と向き合う時間の確保に努める。	・月80 時間を超える時間外勤務教職員の延べ人数の減少〔R４　２月末まで延べ 57 名〕	
	2）開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信	・メールマガジンやホームページ、グループウェア等を活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信するとともに、SNS 等を用いた新たな情報発信の方法についても検討する。 ・学校ブログ等を用いて、日常の学校の様子や取組みを頻繁に発信していく。	・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 85%をめざす〔80.6%〕	
	3）中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信	・学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え有効に活用するとともに、生徒の輝く姿を前面に出したコンテンツを用意し広報活動をより一層充実させる。 ・「芥川高校の生徒教職員の魅力」が詰まった学校長ブログを積極的に発信していく。	・オープンスクールおよび学校説明会への参加者 1100 人を維持する。〔1096 人〕 ・年間 80 本以上〔84 本〕	